

第5回飯山市環境審議会 議事録

日 時 令和4年1月5日(水) 午後2時～午後4時
場 所 飯山市役所4階 全員協議会室
資料等 別添資料等のとおり
議 事 次のとおり

1 開 会

2 あいさつ

(会長)

今日の資料は昨年うちに送っていただいたもの。一通り読んで、血が通ったものになってきた、思いが感じられるものになってきたという感想を持った。あともう一步のところまで来ているので、委員、事務局、皆で良いものを作りたい。もうひと頑張り、よろしくお願ひしたい。

3 会議事項

(1) 第3次環境基本計画(案)について(事前送付資料)

(2) 重点プロジェクトについて

事務局より一括説明

(会長)

全体を通して説明があった。この段階で何か質問はあるか。

(委員)

どこかに詳しく書いてあるのかもしれないが、再エネ導入選定地域とはどういう意味か。

(事務局)

先行地域をどう区切るかというご質問か。

(委員)

そうだ。どういうイメージか。

(事務局)

この計画では、先行地域を目指すということを掲げている。具体的にどのようにエリアを指定するかについては、4月以降に様々な調査をしたうえで検討していきたいと考えている。

(委員)

まだ具体的なイメージは何もないということか。地域とか。

(事務局)

今はまだ具体的ではない。

(会長)

そのあたりは次の段階で検討するということだそうだ。他になければ、各章ごとに見ていきたい。まず第1章についての御意見があれば出していただきたいがいかがか。私からひとつお願ひしたいが、4ページの図で市民代表でごみを片付けているのは女性で、左下の市役所でガッツポーズで頑

張っているのは男性というのは古い絵だと思うので、変えていただいた方が良いと思う。

(事務局)

是非そうしたい。

(委員)

第1章だけの話ではないが、例えば7ページの「計画の対象範囲」の中に表があり、4番目の「循環型社会形成」の「4R」に注番号が付いている(4R²)。ぱっと見たときに、「4Rの2乗」かと思った。同じく第2章の9ページに「cm³」と出てきて、「立方センチメートル」に見えた。書き方を上手く工夫できると良いと思った。

(会長)

私も同じように2乗かなと読んでしまった。検討をお願いしたい。他に細かな部分等があれば修正シートにより出していただければと思うので、先に進みたい。第2章についてはいかがか。

(委員)

25ページに中部電力パワーグリッド飯山営業所調べのグラフが掲載されている。これは飯山市内で消費された電力全てという解釈で良いか。それとも中部電力ミライズが供給している電力だけということなのか。そのあたりを注記で入れた方が正確に伝わると思う。また、グラフの横軸が和暦で記載されているが、後半に行くと西暦になっていたり、併記されていたりする。これだと読みづらいので、併記するか西暦に統一した方が分かりやすいと思う。それと27ページに二酸化炭素排出量がグラフで表されていてとても良いと思うが、前に電力や水の使用量が入っていて、次に急に二酸化炭素排出量が出てくるのは分かりづらい気がする。24ページで放射線について絵で解説されていて分かりやすいので、同じようになぜ二酸化炭素が出てくるのかの説明が必要だと思う。また27ページの2行目に平成30年度の推計で161,739トンと出てくる。この内訳もここで説明したら分かりやすいと思う。下に各部門の割合は細かく出ているが、大まかに家庭と産業、市民の部分と事業者の部分、大別してどちらが何パーセントくらいなのかが分かると読みやすいと思う。また森林の吸収量が出てくるが、飯山市は森林面積が多く吸収効果が大きいと思うので、大きく取り上げて書いた方が効果的だと思う。どういう計算で吸収量を算出したのかは分からないが、こういった内容が書かれているのは良いと思う。

(委員)

25ページからエネルギー消費について分析されている。消費量がトップの会社や組織のデータがあれば、その組織で将来のエネルギーマネジメントの効率化を図ることに繋がる。市役所が一番大きなエネルギー消費者であるかもしれない。どこで一番消費されているのかを考えると、家庭だけでなく、色々な会社や組織などが大きいと思う。良くするために、その点に触れた方が良いと思う。

(事務局)

電力消費量やCO₂排出量については市内の総量で見ているが、そのうちこの産業でこれだけ使っている、という情報が分かれば良いということか。

(委員)

そうだ。トップの消費者は何社かあると思う。

(事務局)

個別の会社名を出すのは難しく、把握することも困難だと思う。

(委員)

しかし市民が頑張っていて活動していても大きな企業が何もしていないということでは良くないと思う。消費者よってのバランスが必要だと思う。

(事務局)

先程産業分野別の傾向がより細かく記載されていると良いという御指摘を頂いたので、それと併せて分かりやすくする上で参考にさせていただきたい。

(委員)

先程の御指摘とも関連するが、25 ページから 27 ページの「地球環境」の部分で、まずエネルギー消費量が来て、次に二酸化炭素排出量の話が来ており、この順番は第3章や第4章でも同じ考えになっているようだ。第2章以降の、温暖化対策に取り組もうという話から考えると、まず二酸化炭素排出量があって、その上で二酸化炭素排出の基となっているのは電力やガスであり、その消費傾向が出てくる、という方が自然に読める。地球環境というくくりの中で言うと、なぜ二酸化炭素なのかという説明があり、その上で二酸化炭素排出の実態はこうで、この排出の原因はこういったエネルギーの消費にある、とした方が順序として分かりやすいと思った。関連した内容で38ページの③の文章で、2行目の「持続可能な地球と地域のために」という言葉は唐突に感じる。その前の気候変動の影響との関わりが分かるような形で書いた方が良い。後半では排出量の削減と併せて適応についても触れているので、気候変動の影響を踏まえて適応の必要性についても課題として加えていただければと思う。また、27 ページの14番の注釈が「環境省の自治体排出量カルテ」に付いている。カルテの説明だと思って読むと、排出量の算定方法について書かれているので、注釈は文章の最後の「推計で～～トンとなっています。」の所に付いている方が良いと思う。先程も触れられた内容だが、CO₂吸収量はどうやって求めたかを書いておいた方が良いと思った。

(事務局)

吸収量は、温対法の地方公共団体実行計画の区域施策編の策定マニュアルに計算式があり、それに当てはめて計算したもの。その説明を加えたい。

(委員)

29 ページのグラフは、産業廃棄物が入っていないか。

(事務局)

29 ページのグラフは、産業廃棄物以外の、家庭から出る一般ごみについての分析結果である。

(委員)

産業廃棄物についての分析はしていないのか。

(事務局)

県に確認をしてみたが、飯山市内から出る産業廃棄物の排出量について詳細に把握することはできないという回答を頂いている。ここでは市民の家庭から排出される生活ごみの内訳を分析した結果を表している。

(委員)

産業廃棄物は見えない。

(会長)

飯山市内の産業廃棄物の排出量は把握できないとのことだ。

(事務局)

28 ページをご覧ください。このグラフは廃棄物排出量の推移を示しており、青い部分が生活系、オレンジ色の部分が事業系を表している。青い部分は私たち一般家庭から出るごみ、オレンジ色の部分は事業活動を伴って排出されるごみである。事業活動を伴って排出されるごみについては、一般廃棄物と産業廃棄物の2つがある。産業廃棄物に該当するものは特定の排出形態で排出されるものに限られるという法律の仕組みになっている。そのため、事業活動を伴うものでも、私たちが生活をしていく上で出るごみと類似したごみについては産業廃棄物ではないということになっている。このグラフは、私たちが生活する上でのごみと、事業活動を伴って排出されるごみのうち産業廃棄物でないものを整理したものとなっている。そのため、事業活動を伴って排出されるごみの全てを把握していないという訳ではない。

(委員)

先程の市内の電力消費量について、二酸化炭素の排出量の後に電力を、というのはそのとおりかと思う。中部電力からの消費電力のグラフは、中部電力が純粹に売った電力のグラフである。平成23年、2011年は大地震の影響で電力がひっ迫しており、省エネ、節約を、となっていた。それから少し経つとリーマンショックの影響でまた落ち込んだ。その時に、企業等では省エネ型の電気設備、例えばエアコン等をどんどん出していた。各企業では県から大きなノルマが来て、徹底的に省エネ活動をした結果かと思う。家庭では省エネ型の電気機器の影響だと思う。減ったというのは市民の努力ではなく、例えばエアコンを買えば10年前と3割、4割違う、テレビも新しいのを買えば減る、冷蔵庫も買い替えたなら電力が半分になるとか、その影響だと思う。注釈をつけておかないと、読んだ人がどう受け取るかは分からないが、平成23年に大地震があったことと、2015年にはリーマンショックがあったことで省エネが進んだという、イベントについては書いておいた方が分かりやすいのではないか。具体的に注釈に入れてしまうと細かく説明しなくてはいけなくなるが。

(事務局)

3行目に「これは東日本大震災での電力危機をきっかけとした」ということは触れているが、グラフの方にも入れるということか。

(委員)

グラフの方にも入れておくと良い。文章よりはグラフのようなところで、見た瞬間に入ってくる。

(事務局)

例えば、平成22年からぐっと下がっているところに「東日本大震災」というように入ると良いということか。

(委員)

それや、「リーマンショック」というように入っていると、理解しやすいと思う。それ以上突っ込むと、あれも、これも、となってしまうが。

(事務局)

工夫してみたい。

(会長)

他はよろしいか。それでは第3章に進みたい。第3章で御意見があればお願いしたい。私から、44ページに目標の1から5があり、主語が何になるかを考えて、例えば「飯山市」であると考えると、1は「飯山市は豊かな自然と共生し」、2は「まちづくりを推進します」、3は異質であり、「飯

山市は市民一人ひとりが、地域から行動します」となるとずれを感じる。「市民」というと、「市民は継承します」、「市民はまちづくりを推進します」、「市民一人ひとりが地域から行動します」となると、目標の5が「市民は環境保全活動を市民とともに推進します」となるので、主語を統一しなくていいのかな、と思った。目標3か目標5のどちらかを変えた方が良いと思う。

(事務局)

難しいが、また相談させていただきたい。

(会長)

「飯山市」となると、目標3を変えた方が良いと思う。主語が「市」なのか「市民」なのか、まずははっきりさせてから書いた方が良い。

(事務局)

委員さん方にお聞きしたいが、主語は「市」が良いか、それとも「市民」が良いか。環境基本計画の性質や目的から考えて、どちらの方がフィットするか。

(委員)

「市」ではないか。

(会長)

そんな気がする。「市」がやって「市民」をリードする、ともに取り組む、というものだと思う。

(事務局)

「市」が主体という考え方だと、基本目標3の表現をそのように変えた方が良いということか。

(会長)

「地域から行動するよう促します」というような。

(事務局)

検討したい。

(委員)

46 ページの基本目標3の②の表現だが、温暖化防止と適応というのは温暖化対策の二枚看板なので、「と」の使い方は正しいと思うが、脱炭素社会の構築に向けた地球温暖化防止ではなく、温暖化防止のための脱炭素社会の構築の方が正しいと思う。表現を変えるか、温暖化防止と適応だけにするか、御検討いただきたい。

(委員)

自然と共生するまちのイメージを作りたいのだと思う。建築関係からだが、飯山のイメージは昭和時代の建物が多い。このまちにある自然は感じていない。古民家が残っているので、古民家をまちで保存した方が良いと思う。ログハウスなどももっと増やしたい。そうすれば自然のまちになると思う。まち全体の計画があるかもしれないが、建築を見ると、正直自然が足りないと思う。

(事務局)

自然だけでなく、建築や家並みなども視野に入れる必要があるという御指摘か。

(委員)

そうだ。

(事務局)

次の章にはなるが、54 ページを御覧いただくと、冒頭に赤い字で「まち並み景観の保全」という章が出来ている。これは庁内のまちづくりの担当部署の意見を取り入れて新たに追加したもの。「市

街地や周辺集落の家並みやまち並み」として、建築物も含めて住環境として大切なものだと位置づけをしている。ここで御指摘の内容を包含できていると考えるがいかがか。

(委員)

良い。

(会長)

第3章についてはよろしいか。それでは第4章に進みたい。第4章で修正等があれば出していただきたい。

(委員)

56、57 ページの基本目標3だが、今回、「脱炭素先行地域」という言葉を入れていただいて大変嬉しく思う。急にこの言葉が出てきているので、2の(1)の3つ目の「・」の最後、「脱炭素先行地域の選定に向けた取組を加速します」という表現になっているが、「加速」でもいいが、今のところは「検討」くらいでも良いのではないか。私の提案ではあるが、脱炭素先行地域は失敗することもあるので。また、最近新聞でも「エネルギーの地産地消」という言葉が出てきている。中部電力は県外の業者であり、長野県民や県内企業が県外の電力会社から電気を買うと、そのお金が県外へ出て行ってしまふ。水力発電や風力発電、バイオマス、太陽光も含めて県内の業者が作っている電力も県外へ出ていくことが多い。できれば将来的に長野県内、飯山市内でやっている再生可能エネルギーはその中で消費した方が、経済が県内、市内で回る。県もそういったことを言っていると思う。そのことから、「エネルギーの地産地消」という言葉を入れていただきたい。もう一点は、57 ページの上に、「地域特有の「雪」を活用した冷房施設や低温貯蔵庫など、雪エネルギー検討会議を中心に研究し」と書いてある。これは商工会議所や市役所も含めてやっていることだが、2行では寂しいので、できれば「電気を使わない」とか、「雪室」とか、「地域特産品」とか、そのような言葉を入れていただくと、やっている人たちの励みになると思う。それと成果目標の表について、雪室はどちらに入るのか。2020年度の「市の公共施設への再生可能エネルギー施設設置数」の2というのと、「雪エネルギーを活用した熱交換（冷房等）施設数」の0とあるが、旭にある雪室は「市の公共施設への再生可能エネルギー施設」ではないのか。

(事務局)

「再生可能エネルギー施設設置数」は、市役所の駐輪場のソーラーパネルとアイネット飯山のソーラーパネルの2か所というカウントをしており、雪室がこれに当たるという認識はなかった。

(委員)

だとすれば、「雪エネルギーを活用した熱交換施設」として、2020年度を1としていただけるとありがたい。

(事務局)

基本的なことをお聞きするが、雪室は熱交換施設という考え方で良いのか。

(委員)

そうだ。電気を使わない冷房施設、低温貯蔵施設なので。お酒、野菜、そばの実を貯蔵している。1か月、2か月でアミノ酸が分泌されて大変美味しくなる。お酒も熟成すれば熟成するほど美味しくなる。

(事務局)

雪室の存在は知っていたが、熱交換施設に当たるかどうかは担当部課に確認したい。

(委員)

今と関係する部分だが、57 ページの一番下に「行政・市民がともに考え」とあるが、「事業者」も必要ではないかと思う。4 ページには行政、市民、事業者の連携が書かれているので、ここにも必要だと思う。目標3に「市民一人ひとりが」という言葉になっているから無いのかなとも思ったが、「事業者」を入れた方が良いと思う。それと58 ページでは、成果目標で非常に高い目標が設定されていて良いと思うが、「市下水道施設電力消費量」を現状からこれだけにするという数値目標が設定されている。これはどういった根拠で設定されたのか。割合だと91%くらいであり、非常に細かな数字となっているので、根拠が分かればお教えいただきたい。

(事務局)

今回の成果目標の設定にあたっては、関係する部局に照会し得た内容を反映させている。「市下水道施設電力消費量」については上下水道課から出された目標値だが、設定根拠については把握していないので、必要があれば確認したい。

(委員)

これは簡単に言うと新タイプのモーターに替えたのとインバーターだ。それで計算すればこれくらいの数値になる。設備の更新だ。

(委員)

深い意味はないが、割合で見ると91%という中途半端な数値で細かな目標設定がされており、大まかに1割削減とかではなかったため、余程確証のある数値なのだろうと思った。

(委員)

54 ページの「まち並み景観の保全」の中で、「・」の3つ目に「未秩序な開発を抑制するため、必要に応じて適切な土地利用規制の導入を検討します」とあるが、県や国でやっている土砂の件も含んでいると考えてよいか。今年かなにかで法制化されるという話だ。飯山市は先行して考えていてすごいと思ったのだが、そうではないのか。

(事務局)

この部分はまちづくり課で景観計画やまちづくり計画を今年度作っており、その中の表現を持ってきている。そこにはもっと細かく書かれているが、環境基本計画で言及できる範囲で抜き出してきているというのが実際のところ。具体的にどのような利用規制を、というのはまちづくり計画の本体を確認してみないとわからない。

(委員)

私は素晴らしいと思った。もう一点、成果目標の中に、「市公共施設におけるPCB廃棄物保管状況」というものがあるが、大きいところだと受電設備、コンデンサーや変圧器、小さいものだと昔の蛍光灯などの中に入っているが、そういったものをすべて把握してこの数値なのか。

(事務局)

PCB廃棄物の保管状況の現状値は200と計上しているが、これは蛍光灯関係である。

(委員)

昭和の時代の蛍光灯だと、中に入っているコンデンサーにも入っている。飯山市には古いものがまだいっぱいあるということだ。

(委員)

第4章全体の書き方について、基本目標ごとに成果目標などがあつた上でその後に囲みの中に市

民と事業者の取組があるという形で書かれている。読めば、それ以外の「～～します」という部分は市の取組なのだろうと思うが、「市がやります」ということがちゃんと書かれていた方が良いと思う。市民と事業者の取組がすごく目立っていて、それ以外にもやることはたくさん書かれているが、誰がやることなのか一瞬分からないように見えるので、そのあたりを御検討いただきたい。56、57 ページの 1 と 2 の順番や 2 の表現については先程申し上げたとおり。

(委員)

56 ページの「資源・エネルギーの有効利用」、COOL CHOICE について、去年も話をしたが、デジタル化に触れてはどうか。市役所でも情報を共有するとかコミュニケーションを有効化するために、紙では郵送代もかかるし、環境に良くない。選択肢として市民に提供すればいいと思う。もちろん高齢者にとっては良くないが、若い人にとっては重要だと思う。最近では中部電力もそのようなオプションが提供されており、請求書を郵送でもらうのではなく、メールで受け取る。これは COOL CHOICE ではなく普通の CHOICE だとは思いますが、2030 年を考えると、デジタル化はどこかに入れないといけないと思う。

(委員)

同じ 56 ページで、基本目標 3 の最初に文章があるが、その一番下の段落に「今後、市は積極的に」とある。取組の中に適応を入れていただいたので、この中にも適応に関わるような内容を少し触れておいていただけると、おさまりが良いように思った。簡単にで良いと思う。

(会長)

その他になければ第 5 章に行きたいと思う。ここは新たな提案であり審議会として一番重い、大事な部分なので、御意見をいただきたい。

(委員)

71 ページに「省エネ・省プラスチック製品の推進」という項目があり、主体ごとの取組が 3 つに分けて書かれているが、「行政・市」のところで、中小企業の省エネに関する取組を支援する内容も含まれていたら良いと思う。できれば補助制度の創設など。設備導入などの投資だけではなく、ソフト的な活動に対する支援があると良いと思った。

(委員)

「省エネ・省プラスチック製品の推進」で、「行政・市」の中に「公用車の化石燃料利用縮小、エコドライブ」とあるが、ここは時代の流れとして、「電気自動車」と入れていただきたい。目に見えた先のことであるし、市が取り組むとだいぶ違う。飯山市が初めてハイブリッド車を買ったのは、誰も見向きもしない時だった。私は市が購入した後すぐ買ったが、冬に何ともなかったと言ったら、じゃあ売る、と言ってすぐに売れたということのをディーラーから聞いた。行政が先を走ると、電気自動車もどんどん普及していくと思う。せっかくのタイミングなので、是非「電気自動車」をここに入れていただきたいと思う。

(事務局)

入れようかとは思ったが、公用車は色々な用途があり、全て EV にとはいかないこともあって「利用縮小」という表現にとどめた。委員さんの御意見とすれば、ここは押した方が良いということだろうか。

(委員)

電気自動車に変わっていく時代は、それほど先の話ではないと思う。

(事務局)

表現を検討したいと思う。

(委員)

72 ページにグラフが国準拠型と県準拠型で入れていただいているが、ここにはもう少し説明がないか。

(事務局)

国と県、それぞれで地球温暖化対策として CO₂削減の目標を示しているのだから、それらに従って作成したグラフである。第1案の国準拠のグラフについては、国の地球温暖化対策計画に2030年度のCO₂削減目標が対2013年度比で部門ごとに示されているため、飯山市のCO₂排出量に当てはめ、2030年度にクリアするよう推移させた後、2050年度でカーボンニュートラルを達成するよう、吸収量と差し引きゼロになるよう推移させた。県準拠については、長野県ゼロカーボン戦略に示されている対2010年度比での2030年度の短期目標、2040年度の中期目標、2050年度の長期目標の削減率で減らしていった場合このような減り方になるということを表すため作成したグラフである。

(委員)

ここが大事なところになる。27ページに出ている二酸化炭素排出量のグラフと連動してくる。第1案、第2案とあるということは、国準拠型を採用し、2050年度でカーボンニュートラルを達成させたいという考えがあるのかもしれないが、県準拠型だと飯山市の場合では2040年度でカーボンニュートラルをおおむね達成するということになる。先程自動車の話が出たが、27ページのグラフを見ると、二酸化炭素排出量は都市型だと産業からが多いようなイメージがあるが、飯山市の場合では運輸からが多く、自家用車を含めた自動車部門が大半を占めているという状況となっている。27ページに入れるのが適切かは分からないが、直近10年間くらいの表で数字を示し、部門別に削減の実績を出した方が良いのではないか。それを提示してからでないと72ページのグラフを見せられてもピンと来ないと思う。確かに2050年は目標ではあるが当面は2030年を見ていくので、2030年時点で国準拠型でも半分近く、県準拠型では半分以上減らして初めて達成できるというグラフを提示する以上は、27ページに表を追加する等して繋がりを持たせた方が良いと思う。また、27ページと72ページでグラフの色が違っているのだから、合わせた方が良く思う。

(委員)

70ページの3の(2)の「再生可能エネルギー・バイオマスの活用」の部分で、事業者の欄に「ソーラー発電施設の設置運営事業」とあるが、これは事業者の敷地内に施設を作ることなのか、それともあちこちで問題が起きている、山を削ってソーラーパネルを設置することを意味しているのか、どちらなのか。山を削って設置する方だと景観にも問題があるが、どのようなことを指しているのかお聞きしたい。

(事務局)

この表現が「設置運営事業」となっているため大きなものを想像させてしまうが、自社が使う電力について、再生可能な電力を敷地内で作って使うというところから始めるということが、国が推進しているありかたである。山を削ってまでやるかということについては、飯山市がメガソーラーなどの立地に適しているかということも不明であるため、再生可能エネルギーのポテンシャルがどの程度あるのかの調査から着手するという方向性を持っている。その上で地域住民や事業者と同

じテーブルで検討していきたいと考えている。ソーラー発電施設は県も最有力な再生可能エネルギーだと捉えていると思うので、市としてもいかに活用していくかということは今後の課題である。この部分の表現について、「事業」が余計なら削除した方が良いだろうか。

(委員)

この表現から大きなものとして捉えてしまったということはある。

(委員)

飯山市では風力発電はどうなのか。

(事務局)

それも再生可能エネルギーのポテンシャルの調査が済んでいないため、未研究である。

(委員)

それでソーラーしか記載していないということか。

(事務局)

その他に小水力発電、中小河川を活用した水力発電やバイオマス発電も議論に上がってはいたが、実際の稼働まではいかないというのが現状である。

(委員)

飯山市ではだめだ。やはり北海道や東北、青森、秋田でないと。飯山市に風力発電設備を作るとしても何億円もの施設が必要で、風が来ないのでそれを電気で回すことになる。実際にそのような自治体もある。

(委員)

川の場合は千曲川の中部電力の施設以外はやってないか。

(事務局)

水力発電は東京電力が西大滝ダムでやっている。

(委員)

他にはないか。

(事務局)

飯山市内では他にはない。小水力ということで、小さな川での検討はされている。

(委員)

それは効率的か。

(事務局)

まだ研究段階であり、事業ベースにはなっていない。

(委員)

今エネルギー価格が非常に高い。将来的にもこの状態であればもしかしたら採算が取れるかもしれない。

(事務局)

研究していく必要はあると認識している。

(会長)

風よりも水の方が研究、発展の余地がありそうな気がする。

(委員)

ここで出てくる「ソーラー発電施設の設置」に関連して、先程話の出た 54 ページの「まち並み

景観の保全」の中で「未秩序な開発を抑制するため、必要に応じて適切な土地利用規制の導入を検討」とあるのは、大規模な太陽光発電施設が出来たときに色々な問題が出てくることを言っているのだと思った。これはまちづくり課と協議して、何を指しているのかを確認しておいた方が良いと思う。小さな点だが、69 ページの 2 に「地球温暖化対策をめぐる動向」という項目があり、書き出しに「表○のとおりです」とある。表○とは下の緑の表を指しているのかと思うが、この一文は必要なのだろうか。表が何か分からないということであれば、表の頭に「近年の地球温暖化対策をめぐる動向」のように入れれば済むと思う。同じように 60 ページにも「表○」と「図○」とあり、ここでは本文の中では触れていないが、ここは「表○」と「図○」を削除してこのままで良いと思う。また、68 ページの COP の表記が本文と注釈で違っており、COP26 であれば「国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議」という表記が正式だと思うので、注釈の方を訂正していただきたい。

(委員)

2 点お願いしたい。1 つ目は、68 ページの 1 の「地球温暖化の現状と将来予測」に関して、長野県の現状と将来予測も当研究所で研究しているので、それを追加していただいた方が 2 の地球温暖化をめぐる動向との繋がり、県の現状と予測、県の対策、と合うので良いと思う。もう 1 つは、野心的な目標として「先行地域を目指します」と掲げており、ロードマップもそれを中心に書かれているが、先行地域に選ばれないこともあり得るので、これをロードマップに掲げてよいのかが疑問である。目指すことはとても良いことだと思うが、これが無くなったときにロードマップが成り立たないとなるとまずいと思う。表現は検討していただくとして、仮に先行地域を目指すとなれば、例えば太陽光で言えば、今は「ソーラーシェアリング」ということが国内では有力な環境調和型の手法だと言われているので、そうしたものを前面に出すとか、そういったものと合わせた表現になればより良いのではないかと。

(会長)

それについて事務局ではどうか。志が高いということであるが。

(事務局)

まず、大きな目標が必要である。計画を作って、絵に描いた餅にしてしまっただけではいけないということもある。今回の環境基本計画では、カーボンニュートラルが大きなポイントになる。国や県でも目標を示しているという状況の中で、飯山市としてどう取り組むかといった時には、目標、それも具体的な目標があった方が良い。そこで、「先行地域を目指す」というものを掲げた。飯山市の脱炭素の取組の状況から考えると、先行地域を目指すという道は険しい道になる。それを踏まえた上でも大きく出て、環境基本計画を飯山市の脱炭素に向けた大きな柱、推進力として進んで行き、周りについてきていただきたいというところから、大きな、具体的な目標として「脱炭素先行地域を目指す」とした。おっしゃるとおり、指定されなかった場合には目標が達成されないということではあるが、それについては表現の仕方を考えたい。「脱炭素先行地域に選定されることを目指して取り組む」という思いで進めていきたい。私も詳しくなかったため、道のりを調べたが、大変である。これを市としてやるかどうかという部分はあるが、私としてはやる方向で進めていきたいと考えている。庁内でも協議をし、その方向で進めていきたいと思いますという見解になっている。このような経緯から、目標として掲げた。

(委員)

非常に力強く伝わってきた。そういったこともどこかで読み取れる表現だと良い。そうした高い

目標を掲げるのであれば、削減目標の第1案、第2案は、当然県準拠の第2案を選択しなければならないと思う。

(委員)

脱炭素先行地域を目指して、だめになる可能性も大いにある。しかし、そこに至るまでの勉強を通じて、各委員さんに講師になっていただき環境問題に取り組んでいけば、レベルも上がり、選考から漏れたとしても、飯山市は環境問題については県内でも素晴らしい地域だということになるので、頑張りましょう。

(会長)

第5章についてはこれくらいとして、最後の第6章、2ページほどに進みたい。まだ未完の部分もあり再提案されるかと思うが、現段階で気が付いたこと、付け加えた方が良いところ等あれば御意見をいただきたい。

(委員)

77ページにPDCAサイクルのことが触れられており、注釈を読めばなんとなくは理解できるが、4ページの図のように図式化したものを入れた方が理解しやすいと思う。読んでも分かりづらい部分もある。また、「環境審議会」という言葉はここで初めて出てくる。PDCAの中に色々加えるのも良いだろうし、76ページに挙げられている組織をPDCAの中に入れるのも良い。通常PDCAサイクルは円で表されるが、最初にPlanとして環境基本計画があり、Doとしては76ページで言えば一番下の「市民・事業者、各種団体」や、市・行政が各種取組の中で出て来るようになると思う。そこまでは良いが問題はCheckの部分で、上から2番目の「環境基本計画庁内推進委員会(仮)」や岳北広域行政組合がそこに入ってくるようになるか。庁内推進委員会は次の取組へ反映させるためのActionに当たるのか、よく分からないが、そのように組み合わせで絵にしたものを入れていただければ、76ページの推進体制に書かれている内容が同時に読み取れると思う。

(事務局)

今委員がおっしゃったようなイメージで作成中である。「環境審議会」がここで初めて出てくるというお話があったが、今回の環境審議会については、第3次環境基本計画の策定に合わせて市長からの諮問により組織したものである。今後、この計画をここからの10年間動かしていくということと言うと、やはり環境審議会の皆さんに定期的にチェック、評価をしていただくことに御協力いただきながら進めていく必要があると考えている。庁内推進委員会(仮)等との兼ね合いもあるが、環境審議会の委員の任期が2年ということもあるので、引き続き御指導いただきながら進めていきたいと考えているのでお願いしたい。

(会長)

その他なければ、第5章、第6章については整理されたものの再提案があるということなので、それを見て御意見をいただくようお願いしたい。

(3) 今後の予定について(資料 No.2)

- ・本日頂いた意見や庁内での調整を経て、1月下旬～2月下旬でパブリックコメントを実施。
- ・2月末に最終形に近い案を委員あて送付。3月8日までに修正意見を事務局へ提出。
- ・第6回環境審議会でも最終案を確認、答申。

5 その他

- ・コラムについて、各委員に専門分野、関心のある分野での執筆を再度依頼。

(事務局)

脱炭素先行地域については、二酸化炭素の削減の点から考えて、目標としては非常に大きなものとなる。地方公共団体実行計画の区域施策編を策定するだけでも大変なところ、その先に先行地域に手を挙げるところまでを考えている。「加速する」という表現についても議論に上がったが、市としては加速してやりたいと考えている。できれば、令和4年度から補助を受けて計画策定に向けた取組を進めていこうと準備を進めている。担当部局としてはそれくらいの勢いで進めていきたいと考えている。環境問題、特にゼロカーボン、二酸化炭素の削減については、議会でも9月議会、12月議会と2回続けて質問があった。やはり多くの方が注目している分野である。そういったことから、「加速」して進めていきたいと考えている。ただ、今の私たちにとって先行地域に手を挙げるというのは、山登りに例えると、富士山に登ろうと思っているがまだ準備をしている状態であり、目標を高く掲げて取組はこれから進めるという状況。環境基本計画の推進、特に重点目標である二酸化炭素の削減については、これからも皆様に御支援をいただきながら進めていきたいと考えている。私共も、今年度環境基本計画の策定を始めてから約9か月研究をし、二酸化炭素の削減をはじめとする知識がだいぶついてきた。庁内でも民生部で脱炭素を進めているということで、市としての脱炭素の推進力の役割を果たせるような状況を今後も作っていきたい。私共が先頭に立って、市民を巻き込んで頑張っていきたいので、皆様方にも御協力をいただきたい。パブリックコメントは始まるが、計画の内容はまだ変更可能である。読み直して気になることがあれば御連絡いただきたい。